



馬醫醍醐 初之第一

馬醫醍醐 初之第一

麻布大学所蔵

初之也一

七ヶ寒熱

血脉八道

血筋又ヶ条

五病平茶

五脈之變并知陰陽

脈茶相當相刺

平茶若一茶加減

一五觀動

一邪場大變

一惡血之知

一五病之相并吉相

一知陰陽

一脈後復治

一五脈論

三十一又

七ヶ之寒熱

目耳鼻舌唇毛回

毛也

一 毫之毛目之毛毫くろくろくく耳之毛鼻

之毛舌古如毛唇如毛舌如毛唇如毛舌如毛唇如毛

ありふれ毛

一 髮之毛目之毛ありありありありありありありあり

鼻之毛如毛如毛如毛如毛如毛如毛如毛如毛如毛

ありありありありありありありありありありありあり

けを熱は毛之毛と寒熱回を毛也

一 胃腸膀胱乃乃三集熱くくくくくくくくくくくくく

谷系付と云々其の如く一四九ありあり
 としけりぬと云々其の如く一四九ありあり
 一回をいふ、肝臟膽腑をいふを因して諸
 の系付といふ、この如く云々一換るる
 一 半換回をいふに不と定て一換るる時
 半換回をいふ、諸脈よふこれら時半
 換るといふ句、回をいふ、この如く云々
 ようといふといふ、三換るる三つと云々也

五観動之脈支

- 一 入脈
- 一 外脈
- 一 沈草脈
- 一 青動脈

一 瀉極之脈 是也

一 入脈と云々一動二張二動一入也 雲寸白脈也

一 湯外脈と云々二動三張也 瘰癧物之脈也

一 沈草脈り云々一水の底草の系の系を

動うこゝ ぬりつゝゝゝゝ 入張也 為為脈也

一 青動之脈と云々青張也 内死之脈也

一 瀉極之脈と云々入脈 入外脈張也 沈草青

動瀉極又外脈入りりゝゝゝ ぬりつゝゝゝ

二七日の内必死也 治死 変りり抱

血脈八道之支

一浮脈 一沈脈 一石連脈 一竹為脈

一麻僞脈 一代脈 一芤脈 一滑脈

一浮脈と云ふ脈物みさへ中々く大証よりんて押て

みさへはよく指とをりてさとうこく也熱脈也

一沈脈と云ふ脈物みさへ中々く中々くをて押て

みさへ指の下よりさうこくの中々の脈也

一石連の脈と云ふ押てみさへ病た

ちてさうこくは急れ脈也

一竹為の脈と云ふ中々の竹とさうこく細れと血

物の内よりさうこく指の下さうこく也諸れ

物の為乃脈也

一麻僞脈と云ふ押てみさへ指の下ありさ

然也必七日の肉より死也

一代脈と云ふとて下より中々浮脈也

一分沈脈也是は三日物の脈也

一芤脈と云ふ脈物みさへ細くをて押て

みさへ指の下弱一是は皮肉壞

髓をばらるる
一滑脈と云ふ脈物みさへ細くをて押て
みさへ指の下強一是は陽脈の脈也

斗場く六事

一 斗場の大小の馬と申して血とれ針灸
 とせう大の也灸極の大小の馬の
 聖方り七日前のぬらひひいて目よ
 交は七目灸る血とれぬ日
 針灸の針灸灸て四月より七月まで
 息と入て申る八月より三月まで
 せぬ息と入て申る肉とれぬ
 ころより三日せめて血とれぬ
 在
 心徳

一 斗場より数又人よる針灸と申す
 といふがこころ血とれぬ三日の
 ころより一馬の馬の馬とれぬ
 ころより一馬の馬とれぬ
 斗場の大小の馬の馬とれぬ
 ころより一馬の馬とれぬ
 ころより一馬の馬とれぬ
 一 懸る馬の針灸と申す馬の馬
 の針灸と申す馬の馬と申す
 ころより一馬の馬とれぬ
 ころより一馬の馬とれぬ

うんの利とてん 殺心と極よめらて
しよおせをい傳

一 外場の法をみるの一身とせめくころり
ると外愈くこと沈血と物くのを愈う
とめくころりしなりりの 持たせ 物愈うことしう
とをい傳

血方五ヶ條

一 馬と外てし 撥 撥くると急の尾やよころり
ころりよ尾よかわくハ腰と急ころりと急
一 馬と外てりきくころりの馬及よの梅とも

のろくの鶏子鶏卵のつらよとてみ
しりきくころりいころりしうら
そらとめるも月よとてろくよちう
あーい傳

一 馬外ていうくハ 必 必胸迄とて符と
らくころり 急 急おこころり

一 馬の血ころり時亡血と急の血物と押して
れハ ケツ 血道ちりけい カク 血皮肉くろてみ
ハ け けいけい り りい傳

一 馬と外て力と打くころりと急のめりいめ

しんじょうとあしはし 母の根あせ出の如く傳

悪血知支

一 平馬と引き入りたるに鼻つりく熱したる肺
 の血はよくと熱さるると六分を
 けると血血と血引るると時を洗と
 して一血血と中六脈のりりり
 一 目の心熱 たる肝の血はよくと
 実さるるとこの熱は青脈は赤の脈
 元道九道りり血とろろ
 一 熱血と血とろろ此のたしと

血たしり 篇身力あげよるゆり脾の血也
 是ハ九道帯脈は陰陽草衣眼也
 一 血とろろ血とあし 四是と冷し
 一 痰補ろく二肩とと芭蕉の色と
 一 多りハ心の血はろり是ハ背道平動は赤あり
 一 血とあし ぼんちとあし
 一 耳の杯弱く固熱 陰氣を懐の物字
 一 多りハ脾の血也とあし 眠る
 一 血とろろ一切は固をれと口と
 一 申比梅くはく也 是ハ三蛇友ありと 毒蛇

尾中 胃道より血と二九女口侍

五為平藥

一 後馬くし茶

桑牛子 二兩 大黃 一分 射干 二分 活葉根 二分

右細抹之取とてしこしこしてし一為一錢入一錢

七首

一 淋色茶

葛粉 一分 木通 二分 干姜 一分 炙甘草 二分

右和搗して酒にて一為一錢入一錢一為一錢

一 舌腹茶

陳皮 一分 黃蘗 二分 右和末 胡椒 四分

味増 四塩 四分 芫 四分 右和末 胡椒 四分

右和末 胡椒 四分 右和末 胡椒 四分

一 湯入一錢七首

一 刀此茶

人参 二分 茯苓 一分 干姜 一分 陳皮 一分 右細

末と酒とて一為一湯入一錢七首右七首

一 後肉茶

地黃 一分 黃耆 二分 乾粉 一分 氣 一分

牛膝 一分 杜仲 二分 人参 二分 右細抹之酒と

一肖中後入一夏七肖ね夕ぜん

五病之悪相と書

一結馬腹多し鼻と何と申し鼻息く

くく口よめくはあふうおく大切也

一舌寸白鼻より黄なるはあまの必死也

一尿結齒と一口よあ道はあうらひ必死也

一内死と歎くはより鼻あらくをいしあうの

ぬり草とよくく月とより鼻の鼻息死

一諸の唇再發の時内死吹かた大切也

五病之悪相と書

一結馬頰^{ケツバシキリ}状とて腹より尾とらと死し

一尖寸白馬鬃とみくは死し

一尿管結類と何と申し腹より尿管より

が振ひし痛はあ

一内死と吹とてしひえらとら鼻

の内うと糠草と吐きうらあ

一ふらの諸の唇あもてをいしぬ

とらひ歎くはうく尿管を口得

五臓を撰^{ソウワカン}并^{シヤウコト}氣陰陽受

一 鼻古は色を紅く肺の風引して心経とて知
 一 鼻古の熱は心経の熱よりしてと實を
 奴うと津を或る悪血と肝小をとて
 一 眼唇熱は心経の熱よりしてと實を
 一 此は也

一 眼唇冷を紅く肝の冷よりして為病始とて知
 一 耳内の色は紅く腎の冷よりして諸の淋病腰内
 一 死或る中風と云ふ
 一 耳内の熱は心経の熱よりして下腎の熱或る内腎
 一 婦人後の始也を云ふ

知陰陽之要

一 陰陽と知と云ふ馬の四大の根中と象して
 一 其甲乙と知諸症病宿病を以て陰陽を小
 一 加減する處は是也四大の根中と象しり
 一 云はるは生ずる所地水火風空は五と云ふ
 一 氣の五勝之を陰陽の合と云ふ也故に
 一 病氣の生ずる所五病七傷八邪を以て
 一 陰陽と云ふは陰陽の合也陰陽と云
 一 陰陽也其勝と云ふは陰陽の合と云
 一 陰陽と云ふは陰陽の合也陰陽と云

温燠ユヅクの湯ヤクが乾カラ地時トキも甚シ麦アヲと湯ヤクと一ヒト秋冬
 と陰カゲと日ヒ夜ヨの陰カゲ陽ヤクし日ヒ前マエ也ナリ是コノより也
 冬フユの病ヤメハ冬フユ三月ミヅキ大オホ支サセ也ナリ熱アツクの病ヤメハ夏ナツ三月ミヅキ大
 也ナリ極タビ之ノ熱アツク陰カゲと日ヒ夜ヨと所トコロ時トキ也ナリ
 病ヤメ多オホクハ上ウヘ茶チヤハ下シモ茶チヤ日ヒ一ヒトカケ
 湯ユヅクと白シロ湯ユヅク

知陰陽支

陽丸

ト翻丸

上液

陰右
二毛

青アヲ毛
 栗クリ毛
 麻カサ毛
 鴉カク毛
 點クワ毛

木
 火
 土
 金
 水
 下液

青アヲ毛
 栗クリ毛
 槽カサ毛
 阿カク毛
 二毛

肥馬
 右腋
 ひく毛
 血チ毛

瘦ヤセ毛
 細腋
 ひく毛
 血チ毛

一 一 上 候 湯 の 為 小 下 候 の 陰 六 陰 陽 一 一 一 一
お ぬ ぬ

一 一 上 候 湯 の 為 小 下 候 の 陽 六 陰 陽 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一

脈 藥 相 當 相 尅

一 一 浮 脈 乱 脈 卯 脈 一 馬 一 一 地 物 一 一 何

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 沈 脈 竹 節 脈 沉 草 脈 骨 動 脈 小 部

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 代 脈 芫 脈 の 為 小 一 一 地 物 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 陰 脈 の 馬 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

の分別しうとる一し物也

瓜之種法

上 皮 ヨリ 生スル 青クシ

中 田為ヨリ 生スル 白物ヨリ

下 胃ノ瓜ヨリ 生スル 黒クシ

瓜ノ裏側スル葉

あふともあふり葉

松葉は皮をひきとりて白く

梨の木の皮曰

瓜も皮同三分 右半分ゾウノ出

瓜の二一分 一五倍子 一兩

香附子 一朱 右何し二ふく出

くち子 入て目小三分あつと煮て

一寸口傳瓜ノ 四指ニ毎くを

その瓜ハ 十文字

内うり瓜ハ 多川よ

瓜あつら 瓜ハ 横よ 何し口傳也

平葉ノ巻

温茶四十平次

一 干茶と二平茶 干茶七錢又個乃七代

干茶粉と一錢加て此

一 胡柿と二平茶 胡柿の粉と五錢と七代

一 竹の筒と入個小三枚と一

一 紅のびてつる

一 紫蘇葉と二平茶 飲湯小と一 一 枚並

てと後干つる也

一 巴豆と一平茶 下成りの打包と一

一 天蓋と二平茶 ちりちり小紙ふつと一

一 ぬす一袋と一 一 後毒と一 右何

大急のるるとありむ時五臟六腑の

が心わらりし時凶邪と平と一

一 さいんありし時熱小たくらと一

一 乾茶三平茶

一 乾茶根と一平茶 下成りの小使も

一 中から果塩八分合と一 乾茶と一

一 干茶と一

一 園の口と二平茶のいしと一

一 干茶と一

一 果塩と平に一成り

樂壇小分合々ものしつと焼小如終り
をくしりらと後細末ノ此も也くらともの
と云ハ生うり時との皮とむれて極奴屋
ふ小干たれと云也何し糞と云ぬと時
る新或ハ又勝云厨小を性不審如時極小
くくして下行也

茶ノ如燻々々

一人ノ久友別換ちれ馬小何為とししと
茶ヲ下下何新と云茶ヲ何てと後為と
下治

一 一寸白ハ滑うりりと林うり中とがとん
口傳と

一 為齋為ハハハハ禁滑多り茶と可用
一 乞るハ茶大脈うりハ茶のり志の
かりん々々

一 諸ノ後さいりハ時内既吹も終ハ大也
一 弱馬為ハ茶小脈ハ茶のりらと

陰陽ノ如

青毛
梨毛

木
火

草毛
雲雀毛

豚毛
鶏毛
黒毛

土
金
水

糟毛
河豚毛
二毛

ひらひら

寸重毛

二毛

厚毛

血毛

血毛

肉毛

肉毛

上段と陰のる下段と陽のる陰陽のる
ひらひらと上段と陽の馬下段と陰

くも陰陽のるひらひら

五臓論

春肝木酸

王

夏心火苦

相

土用脾土甘

死

秋肺金辛

囚

冬腎水鹹

老

木味子味

母味

剋味

冠味

肝木膽腑

眼筋毛

心火シノカ小腸コウチウ
脾土ヒ胃腑イブツ
肺金ハク天陽テンヤウ
腎水ジン膀胱ホウチヤウ

己巳

天外テンガイ

五月吉日

舌血シツケツ毛モウ
唇肉リンニク乳ニヤウ
鼻皮ビ鼻息ビシツ
耳膏ミミカウ齒シ

東海新右衛門尉

仲總

坂内守之丞尉

